

公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第104号 2017年8月2日 発行

「金沢市総合支援事業への作業療法士会の協力」

公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 東川 哲朗 (金沢脳神経外科病院)

金沢市の総合支援事業が4月から始まった。

昨年9月に金沢市から事業への参画を打診され、事業の計画段階からの参加をお認め頂き半年にわたり共に考え実現に繋げた。大きなポイントは2つあったと思う。1つ目は行政機関への協力事業の進め方の違いである。従来は、行政機関が実施計画を考えたものに後から参加を求められるという形が多かった。その為、事業開始後に提案する事があっても活かすことができない事が多かった。今回は企画の段階から参加させて頂く事をお願いし認めて頂いた。その成果として、アセスメントする項目や用紙に到る部分にまで当初よりこちらの考えを入れることができた。作業療法士にとって、対象者の状態をつかみやすいアセスメントができたと考えている。2点目は今回の事業計画があった当初より金沢東西支部の作業療法士に声かけし参加をお願いした結果、多くの会員の協力を得ることができた点である。金沢作業療法サポートチームを結成することができ計画段階から意見や作業に関わっていただき本事業に結びつける事ができた。今後、行政との協力はこのようなモデルで進めたいと考えている。

説明が後になったが、この総合支援への協力は金沢市の同支援サービスの一つである。短期集中介護予防を行う事で要支援者が要介護者にならない様、関わるものである。地域包括ケアセンターのスタッフが評価・プログラム立案まで行い、その内容について一緒に検討するという取り組みである。ここに作業療法士が関わる意義として、活動・参加の視点でプランを検討できるという役割があると考えている。

これまで行ってきた検討会議では、包括の職員の方から自分達にない視点での提案があったと評価を頂いている。作業療法の視点からの助言が有益と受け止められていることに参加意義を持ちつつ、今後も金沢作業療法サポートチームのメンバーと共に協力していきたい。

中能登町総合事業が始まりました！

能登支部担当理事 川上 直子 (恵寿総合病院)

中能登・七尾地区では、今年1月22日に県リハビリテーションセンターと作業療法士会、理学療法士会、言語聴覚士会とで地域包括ケアにおけるリハビリテーションのシンポジウムを開催し、近隣施設のOT、PT、STで「七尾市・中能登町リハビリ連絡会」を発足した。今年度から始まった中能登町の総合事業への協力について紹介する。

一般介護予防事業のいきいき百歳体操グループへの技術支援と地域ケア会議派遣を依頼され、リハビリ連絡会が窓口となっている。いきいき百歳体操は12か所ですでに自主的に取り組んでいるグループがあり、「リハビリの先生にさらにしっかり習おう講座」と題され、各所に今年度1回ずつOT、PTが出向く。既に2回開催されており、今まで自己流になりがちだった体操の正しい行い方の指導や、腰・膝・肩の痛みへの対策などのミニ講座を行い、より効果的な介護予防とモチベーションアップをねらっている。

地域ケア会議は、6月から毎月1回リハ専門職1名ずつの派遣で、勉強のために数名見学参加もさせてもらっている。要支援、総合事業対象者、要介護1・2で新規申請の方から2ケース(1ケースあたり40分)について自立に向けた支援の方向や目標設定について検討している。会議では、最初に意見を求められ、総括の前に更に助言を求められるなど、リハ専門職への期待の大きさにありがたさとプレッシャーの両方を感じる。まだ始まったばかりだが、地域での位置づけを確固たるものにすべく、今後も力を合わせていきたい。



シンポジウムの様子(1月22日、七尾市)

第26回石川県作業療法学会を終えて

学会長 河野 光伸 (金城大学)

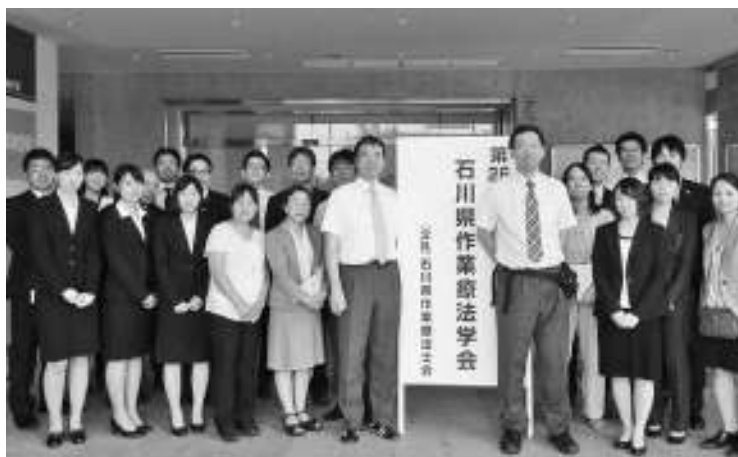
第26回石川県作業療法学会を平成29年6月25日(日)に無事終了することができた。150人を超える(学生含む)みなさまにご参加いただいた。深く感謝を申し上げる。また、金城大学での開催をご推薦いただいた石川県作業療法士会のみなさま、および、本学会の開催にあたって、日々の業務でお忙しい中を準備にご協力いただいた学術部のみなさま、朝早くから会場準備、当日の学会運営にご尽力いただいた学会実行委員会のみなさまに、この場をお借りして深謝申し上げます。



今回の学会テーマは、「未来への生きがいを生む作業療法」であった。若手、ベテランを含め、日々の臨床業務内で努力されている他職種との連携システム、臨床場面でご経験された症例について、26演題のご発表をいただいた。どの発表も症例の期待・希望に沿えるよう、各症例の生活をどのように改善すべきか考慮した発表で、非常に作業療法士らしい学会であったと私は感じた。ひとつ欲を言えば、症例研究が多かったため、調査研究や実験研究の発表も欲しかったところである。次年度以降に期待したい。

特別講演では、金城大学の澤俊二氏より20年にも及ぶ脳卒中の追跡調査結果をご報告いただいた。これまでに拝見したことのない臨床データであり、作業療法士の今後のあり方についても考えさせられる内容であった。

さて、今回、当学会を金城大学にて初めて開催させていただいた。手前味噌で申し訳ないが、本学の教室を会場として使用したことで発表者と聴衆の距離が近づき、お互いの顔が見やすく、例年になく和やかな雰囲気の中で学会を進行できたのではないかと、私個人は思っている。そして、日々の業務の中で、私自身が作業療法士としての生きがいをどのように感じ、それをどのように発信していくべきかを考えさせられる学会であった。ご参加いただいたみなさんにとっても、臨床現場にて症例の生涯を考慮した支援を考える上で有意義な学会であったなら幸いである。



県学会運営スタッフ一同

第26回石川県作業療法学会 学会長奨励賞受賞者の言葉



左から平田氏、真柄氏、河野学会長

「失語症により表出能力低下を認めた症例の役割活動参加に対する作業療法～認知症絵カード評価法 (APCD)・作業に関する自己評価・改訂版 (OSA - II) を用いて～ 平田 純」

「不安が強く介助に依存的になっていた症例
—不安に寄り添った介入— 真柄麻衣」

金沢脳神経外科病院 平田 純

私は現在、臨床経験は3年目であり、今回学会発表をするに当たり、日々の臨床疑問を振り返ることから始めた。その中から、自身の意志の表出が難しい患者様の意味ある作業を把握するにはどのような方法があるのかと疑問を持った。この疑問点に対して、文献や研究報告などを参考にすることで、解決策を考え、その結果を事例報告できたように思う。今回の事例を通して、クライアントの意味ある作業の把握、真のニーズを知ることが、本学会テーマでもある「未来への生きがいを生む作業療法」を行うには必要であることを学んだ。この経験を活かして、今後の臨床場面において、常に考える習慣をつけることを心掛け、疑問点の解決に向けて行動できるよう努力していきたい。

金沢医科大学病院 真柄 麻衣

この度、第26回石川県作業療法学会に参加し、脳卒中後の失敗への不安により、介助に依存的になっていた症例との関わりを報告した。動機づけ面接の技法を用いて、自分で目標を立て取り組んでいくように症例主体の介入をしたところ、他者からの働きかけでは変わらなかった症例が、自宅退院という目標に向かって行動が変わっていった。今回の報告で、学会長奨励賞を頂けたことは本当に嬉しく、この症例との関わりで得たことは今後の臨床に活かしていきたいと思う。

初の学会発表であり、分からない事ばかりであったが、職場の先輩方に多くのアドバイスを頂き無事に発表することができた。忙しい中とても熱心にご指導くださった先輩方には本当に感謝している。

第26回石川県作業療法学会に参加して

金沢脳神経外科病院 北村 梨紗

石川県作業療法学会に初めて参加した。学会自体が初めての参加であり、どのような内容の発表が行われるのか何もわかっていなかった。しかし、演題を聞いていると臨床現場において身近な内容ばかりであり、自分の中で発表内容が想像しやすく、発表者と参加者との距離が近くに感じることができた。自分が担当させていた症例と似ている発表内容もあり、悩んでいる部分のヒントを見つけることができた。また、質疑応答の内容も質問をする人たちの様々な視点からのもので、演題内容を違った角度から見ることができ、全てが参考になることばかりであった。私は、現在、脳血管疾患の症例を見ることが多いが、演題内容は身体障害領域に限らず、老年期、精神障害、発達障害、訪問など様々な分野での演題があり、どれも作業療法士として関わっていくべきものである。そのため、時間が重なってしまい聞くことができない演題もあることがとても残念であると感じた。今回のテーマは、「未来への生きがいを生む作業療法」であったが、自分が関わるべきは入院中だけではなく、その人の今後の人生に関わっていくのだと改めて感じた。今回、初めて参加してみて、自分が悩んでいる部分のヒントや参考にできるものを得ることができ、さらには違う分野での作業療法の内容や現在の実態などを知ることができ、とても実りのある1日であった。



左から田中氏、北村氏、広瀬氏、辻氏、三野氏

全国に発信できる学術雑誌へ

学術部部长 堀江 翔(金沢大学附属病院)

石川県作業療法学術雑誌は、前号で通巻25号を数え、約四半世紀続いている雑誌ということになる。初めは、県学会の抄録集に近い内容であったが、査読の導入などでしっかりと「学術論文」集として成長し現在に至ると伺っている。私自身が編集に関わったのは、近年の一部であるが、歴史を継ぎ、またよりよい雑誌とするため変更を加えていった。

その一つとして、医学中央雑誌(医中誌Web)への登録がある。学術雑誌としては、多くの方に触れるとともに、その内容を踏まえて臨床にいかしてもらおうという点に一つの役割があるが、Webでの検索が可能となることで、石川県だけでなく、他県のOTにも内容が伝わるようになった。また、追従してメディカルオンラインにも登録し、本文の直接のダウンロードも可能となったことで、益々石川県OTの研究・実践が日本全体に広がりやすい体制ができた。

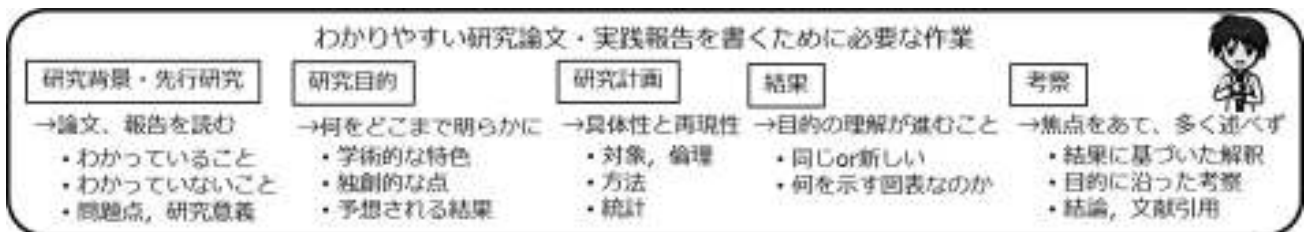
話は変わり、主な投稿内容としては、実践報告、特に石川県作業療法学会の発表演題が多い。近年では、学会終了後に発表者に対し、発表内容を論文化し投稿しないかと声掛けを行っている。論文化する意義については、下記の米田氏の記事を参考いただきたいが、前述した石川県のOTの努力を全国に発信するためにも、若いOTもチャレンジしてほしい。また、県学会に限らず全国学会・東海北陸など、他のOT学会や、各専門領域に特化した学会での発表も、投稿されることが少しずつみられている。作業療法やその他全国誌に投稿するには敷居が高い、といった会員の方は是非石川県の雑誌に投稿していただきたい。査読に関しても、論文作成に不慣れな投稿者に対し、丁寧な修正やアドバイス等の教育的査読を重視している。例年、査読を依頼している方々には、この場を借りて御礼申し上げたい。

以上のことを、学術部のほぼ手作りでおこない、一冊一冊丁寧に雑誌を作り上げている。今年も多くの投稿を心待ちにしている。

『論文を書くという作業』は誰のために!?

理事 米田 貢(金沢大学)

第26回石川県作業療法学会が開催され、実践報告を中心に多数の発表があった。学会発表は新しい知見や経験を報告し、内容を深める場として有意義である。次のステップの『論文を書くという作業』には、どのような成果が期待できるだろうか? 論文を書くことで自らの知見が深まり、自身に関わる患者さんに貢献できる。さらに他者が論文を読み参考にすれば、他者の関わる患者さんに貢献できる。やがて学問の発展、社会貢献へ…という流れで、その成果の拡がり期待できる。読まれる論文のポイントの一つは「わかりやすさ」である(下図)。



目的では、取り組みの位置づけ(新規性や独創性)を明確にしなければならない。そのために先行論文を読み、わかっていること、わかっていないことを明らかにする必要がある。方法は再現できるよう具体的に書かれていることがとても重要である。方法が理解されなければ、結果が正しいのか、解釈をどのようにすればよいのかを検証できないからである。結果は本文を読まなくても理解できるくらい、わかりやすい図表が望まれる。考察は結果に基づいた解釈が論文を引用して論じており、多くを述べないことがポイントである。これらの作業を他者のチェックを受けながら何度も繰り返すことで、単なる知識が臨床に役立つ知恵になっていくことに気づくだろう。県士会は論文を書いた経験がなくても、次のステップへと飛躍を志す会員に対し、バックアップをしてくれるはずである。ぜひ『論文を書くという作業』にチャレンジを!

会長からの提言

公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 東川 哲朗(金沢脳神経外科病院)

【学会への参加・不参加】 先に石川県作業療法学会が金城大学において開催された。約170名の参加があり盛会であったと思う。しかしながら、これで良いのかという気持ちも無いわけではない。参加者の多くは、経験3～4年の若手会員である。今回の学会でも社会の新しい制度への取り組みや珍しい疾患への対応、改定された診療制度(医療・介護)に呼応する取り組みなど勉強になる多くの発表を聞く事ができた。参加出来た人は多くの知見を得る事が出来たと思うが、不参加の方はこれらの新しい制度や改訂診療制度への対応をお願いする所である。

【研修会への参加】 3月の研修会において、生涯教育や卒後教育について話をさせて頂いた。この中で県士会主催研修会への参加者人数が会員数増加に比べ十分な増加になっていない心配を提起した。中には、他の団体が主催する研修会には参加していると言う方もおられるであろうが、県士会では日本作業療法士協会の進める方向に沿った内容の研修会を企画し開催している。そして、その協会は厚労省や他の関連団体との折衝のなかで作業療法士に求める活動に対応する方向性を考えており、社会ニーズに応えるものである。当会以外の研修会参加も勿論大事な事であり、併せて、県士会開催研修会にも参加をお願いするものである。

【指定規則の改定動向】 現在、協会では養成に関わる指定規則の改訂に取り組んでおり、その中で、臨床実習の在り方も変化する事が予測される。その中では臨床実習中に経験できる内容に制限が入る事になりそうである。つまり、これまでのような『経験を踏んだ新卒者』ではない若者が職場に就職してくることが予想される。従来のように就職してすぐに働ける事は無くなり、システムチックな卒後研修を各職場で行う必要が出てくると考えている。

【47委員会の動向と重点事業】 春より2度の協会47委員会(各都道府県士会会長が委員を務める委員会)に出席してきた。現在の当会は他県に比べ、決して活動的ではないと目覚めさせてくれる委員会となっている。大きく進めなくてはいけないことに地域ケア会議参加に資する人材の育成、認知症支援に資する人材の育成、総合支援事業に関わる人材の育成がある。どれも人材の育成が不可欠の様である。今後、これに見合う研修システムを構築していきたいと考えている。また、同じく地域ケアシステムの中で現在注目が少ないことに児童に対するサービスが挙げられる。地域包括システムには、子どもから大人まで幅広く含有するシステムである。しかしながら、今スポットが当たっているのは高齢者の部分であり、児童への対応が遅れている。今後、この対応をしようとしたとき、現在発達領域に勤務されている作業療法士だけでは足りないことは明白である。領域にとらわれない関わりが必要で、同じく研修などを考えていくつもりである。

【士会員と協会員】 この他に、協会は組織強化を図るとしており、その一つとして協会員はすべからく県士会員という形にする意向を示している。この意向に沿う様、定款の見直しなどが今後必要となるが、47都道府県士会が足並みを揃え、協力していく予定である。また、先に指定規則改定にも触れたがこの中では臨床実習指導者の資格や指導に当たったの研修受講などが盛り込まれてくる予定である。養成教育に関しては全国で養成校の定員割れが問題となっている。この問題を放置すれば、将来の作業療法士の質の担保に影響することは必然である。職能団体として見逃せない問題であり、早急に各養成校と協力し優秀な学生の確保に努力したい。

【会員意識への期待】 沢山の課題を書いてきたが、これらは県士会の役員のみが行う事ではないし、行えるものでもない。むしろ、役員が出来ることが少なく、会員全員が意識を高め取り組んで行かなければならないことばかりである。作業療法士が、作業療法が2025年

以降も国民に役立つ有益な医療健康職種であることを認めてもらえる様、皆で一緒に取り組んでいきたい。

【役職者・リーダー研修会】 この様な話をもう少し詳しく「役職者・リーダー研修会」でお伝えするつもりである。この研修会のネーミングにもかなり悩んだが、やはり、各作業療法士が自覚を持つことが必要と考え従来通りの名前での開催に決めた。多くの参加をお待ちしている。



石川県作業療法学会で挨拶する東川会長

活かせ！MTDLP実態調査⇒在宅支援部との合同研修会企画へ 魅せる作業療法！！MTDLP活用実践研修会～MTDLPを活かした在宅支援～

MTDLP担当理事 在宅支援部担当理事 **中森 清孝**(加賀のぞみ園)

昨年度、県内の通所リハビリテーション施設(以下、DC)に勤務するOTに対してMTDLP実態調査を行った(県士会ニュースNo.102参照)。今年度に入り、6月25日に開催された石川県作業療法学会においては、参加者の皆さまにも内容を申し伝える機会を頂き、協力頂くことができた皆さまに改めて感謝申し上げます。

今回、MTDLP実態調査報告を受け、協力OTは経験年数が10年未満の方が約7割を占め、職場では兼務者やOTが少数で働く特徴を把握できた(図1)。そのため、まずはMTDLP関連研修会に参加することにより、互いが働く境遇を知り、日々臨床にてMTDLPを活用する工夫等を共有できることは大きいと考える。また、MTDLPとの関連の強い生活行為向上リハビリテーション加算の算定に向けては、医療(病院)からDCへの生活行為向上を目的とした連携の構築が必要であるとの意見も多かった。

そこで、今後の展開として、DCを含めた在宅場面におけるMTDLP活用実践報告だけでなく、病院からの在宅支援におけるMTDLP活用実践報告を紹介頂く機会を設けることによって、「MTDLPを活用した在宅支援の視点を育む機会」を企画できると良いと考えている(図2)。

MTDLP推進委員会+在宅支援部合同研修会：平成29年9月9日(土) 13:00～

※病院から在宅に携わるOTの皆さん！生活機能を環境因子に丁寧につなぐ視点を一緒に培いませんか！！

結果：調査協力OTの特徴
・経験8.2年、兼務者多、1.4人/DC
・MTDLP関連研修経験： 事例検討会参加者 多、事例報告者 少
①MTDLP：経験者 3割、未経験者 7割
②OT付加算Ⅱ：算定者 6割、未算定者 4割
③生活行為向上リハ加算： 算定者 1割、未算定者 9割

図1 MTDLP調査協力OTの特徴



図2 今後の展開：在宅支援部との合同研修会企画案

平成30年度の診療報酬改定について

病院医療部担当理事 **渡邊 貴之**(公立つぎ病院)

会員の皆様もご存じだと思うが診療報酬は2年毎、介護報酬は3年毎に改定されており、平成30年度は診療報酬と介護報酬の同時改定が行われる。平成28年度の診療報酬改定では回復期リハビリテーション病棟におけるアウトカムの評価、廃用症候群リハビリテーション料の新設、生活機能に関するリハビリテーションの実施場所の拡充等が追加された。医療保険から介護保険への移行に関しては目標設定等支援・管理料が新設され、要介護被保険者の医療保険での維持期リハビリテーションは原則平成30年3月までとなっている。また、平成26年度に新設された地域包括ケア病棟は疾患別リハビリテーション料が入院料に包括されており、疾患別リハビリテーションの単位数ではなく退院支援や提供する内容と効果的なりハビリテーションに重点が置かれている。このような診療報酬の流れにおいて効果のあるリハビリテーションを提供し、より早期より生活行為の向上に焦点を当てたりハビリテーションの提供が重要となっている。まさに作業療法の専門性を活かしたりハビリテーションは今後の医療保険制度や社会的要望に必要な期待される面もあり作業療法士としての知識や技術の研鑽が今後さらに必要になってくる。当県士会においても医療と介護の連携やMTDLPの研修を企画・運営しているので積極的に参加して頂き、知識や技術の取得だけでなく情報共有や会員同士の連携を図る場となることを期待している。現在、中央社会保険医療協議会では平成28年度の診療報酬改定で新設・追加された回復期リハビリテーション病棟におけるアウトカム評価の導入の影響、維持期リハビリテーションの介護保険への移行状況等を含むリハビリテーションの実施状況調査を行い、その結果を基に次期診療報酬改定に向けての提案を検討している。当県士会では平成30年3月24日(土)に診療報酬・介護報酬改定研修会を予定しているのでぜひ参加頂きたい。

各支部支援活動状況

金沢東支部

金沢大学附属病院 堀江 翔

今年度第1回の事例検討会を6月9日(金)に金沢大学附属病院にて開催した。参加者は31名(うち学生2名)で、事例検討は2題であった。例年、年度初めの事例検討会は参加者、発表数が少ない傾向にある。参加者が40人近くいた時もあったことを思えば寂しい気持ちもあり、学会練習としての参加募集など、広報の仕方を考えていきたいと思う。一方で、検討会の内容については、東支部の特色として1例ごとの時間をかけた検討やアドバイス、軽食を交えた懇親会など定着してきた部分もあり、参加した方全員が少しでも気軽に話せるような環境づくりを続けていきたい。今後は、第1回のMTDLP事例検討会が9月20日(水)、第2回の一般の事例検討会を11月17日(金)に開催する予定である。いずれも期日までしばらく期間があるため、予定を調整し参加いただくと幸いである。

金沢西支部

公立つぎ病院 笛山 卓弘

6月28日(水)19時より石川県済生会金沢病院にて金沢西支部連絡会及び第1回事例検討会を24名の参加のもと開催した。昨年同様に金沢西支部各施設の方に参加をお願いし、昨年の実績と今年度の支部活動の取り組みについて報告を行った。また、今年度西支部で行う研修会について意見を聞く機会となった。事例検討会では2事例の発表があり、認定作業療法士4名の参加のもと、1事例に対して時間をかけ様々な意見が聞ける場となった。次回は11月12日(日)に第2回MTDLP事例検討会と第2回事例検討会を同日に開催予定である。皆様の積極的な参加をお待ちしている。

能登支部

恵寿総合病院 永井亜希子

多くの方が参加しやすいように、研修会ごとに研修会場を羽咋～奥能登の各施設に移して行っている。研修会終了後に、各施設のOT室見学などをさせていただき、説明を受ける機会も設けてもらっている。他施設見学を通し、参考になることも多々あり、非常に勉強になる。今回、8月25日(金)に穴水総合病院にてMTDLP研修会を開催する。また、MTDLP研修会を平日の勤務後に参加できるように企画した。今後は10月10日(火)国立七尾病院、3月2日(金) 青山彩光苑を予定している。実りある研修会にするため、演題発表・多くの参加を期待する。その他、事例検討会は10月27日(金)佐原病院、2月4日(日) 能登小牧台にて予定している。これらの予定を参考にし、年間を通して、計画的に発表や参加を行っていただきたい。

今回より、能登支部長を長年務めて頂いた福井朱美氏より永井に代わる。能登支部・石川県作業療法士会の発展に微力ではあるが、貢献していきたい。

加賀支部

片山津温泉・丘の上病院 西村 幸盛

今後、加賀支部では10月22日(日) 9:30から芳珠記念病院において「今さら聴けない・今から学ぶ!!医療と介護のりハ専門職連携 ～加賀・小松・能美の取り組みとOTの実践から～」と題した研修会を予定している。研修会では、地域における連携について、社会的な情勢や市単位での実際の取り組みの様子や市や事業所を超えた連携例の紹介、さらにそれらに関するディスカッションを予定している。同日午後からは、事例検討会も予定している。12月13日(水)の夕方からは、加賀市医療センターにおいてMTDLP事例検討会を、2月18日(日)は芳珠記念病院にて午前MTDLP事例検討会、午後事例検討会を、さらに3月14日(水)の夕方からは芦城クリニックにおいてMTDLP事例検討会を予定している。詳細はホームページと公文書を参照し、多数の参加を期待する。

平成29年度 公益社団法人石川県作業療法士会 ◆◆◆第2回理事連絡会議事録◆◆◆

1. 日時：平成29年7月12日(水) 19:00～21:40
 2. 場所：西泉事務所
 3. 出席：東川、寺田、麦井、安本、小池、大西、明福、村田、渡邊、寺尾、高多、川上、米田、桂、白山、中森(理事16名)、西村、永井(支部長2名) 欠席：岡田、河野
 4. 会員動向：正会員789名(H29.7.10)
 5. 議事：新入会員7名を承認
第1号議案 各部・委員会・支部事業経過報告について
- 【学 術 部】第26回石川県作業療法学会(於金城大学)報告。参加者169名(うち学生14名)。
- 【教 育 部】①MTDLP基礎研修会を9月10日(日)開催予定。②現職者共通研修会を8月、11月、2月開催予定。
- 【健康福祉部】介護予防・日常生活支援総合事業の加賀・能美・小松情報交換会を8月25日開催予定。
- 【社会福祉部】研修会を11月26日に開催予定。内容は「食事」をテーマに検討。
- 【在宅支援部】①県脳卒中リハビリ協会の依頼で6月に講師を派遣(穴水町、志賀町、加賀市)。②MTDLP推進委員会との合同研修会を予定。③いしかわ介護フェスタに金沢東支部と合同で参加予定。介護保険分野からのOT参加を図る。④訪問リハ実務者研修会を12月9日開催予定。
- 【発達障害支援部】現職者選択研修会(発達障害領域)報告。PT、県外OTの参加があった。
- 【精神医療部】①勉強会を9月8日に開催予定。②研修会を予定しており、日時・講師を検討中。
- 【病院医療部】①現職者選択研修会を9月30日、達人OTセミナーを12月3日に開催予定。
②診療報酬改定研修会を3月24日に開催予定。研修会への幅広い年代層からの参加向上を図る。
- 【MTDLP推進委員会】①今年度からの各支部での事例検討会開始に伴い、各支部に委員を配置。事例検討会推進方法のマニュアルに沿って実施していく。参加費は500円(印刷代)とし、ファシリテーターには1事例あたり1,000円支給。
②在宅支援部との合同研修会を企画、9月9日に開催予定。
- 【金沢東支部】①第2回事例検討会を11月17日開催予定。②研修会の内容を検討中。
- 【金沢西支部】①百万石踊り流し報告。49名参加。②県土会ニュース以外での支部活動報告方法を検討。
- 【加賀支部】①研修会と第2回事例検討会を10月22日開催予定。
- 【能登支部】①MTDLP事例検討会を8月25日開催予定。
②研修会を2月頃に開催予定。幅広い分野を対象とした内容を検討。
- 【事 業 部】①高校生を主対象とした『なごやか作業療法セミナー』をJCHO金沢病院で開催予定。
②OT養成校との連携ポスターを作成、県内高校への配布、会員施設で掲示依頼予定。
③高校生等の施設見学を県土会事業として取り組む。連絡調整担当は小池理事。
- 【企 画 部】来年度総会の日時・場所決定報告。②風船バレーボール大会のトロフィーを検討。
- 【広 報 部】部員構成を3班に改変。研究班・調査班による調査結果を10月頃に報告予定。
- 【認知症対応委員会】金沢市から3包括での認知症機能向上教室への協力依頼があり承諾。
- 【地域包括ケアシステム対応委員会】事業報告会を8月5日～6日開催予定。
- 【自動車運転の作業療法委員会】①道路交通法改定後のOTの関わり方について、情報通知する。
- 【災害対策委員会】3士会合同研修会を検討。
- 【執 行 部】47都道府県委員会報告。

役職者・リーダー研修会

8月19日(土) 14:00～

会場：金沢市ものづくり会館

* 各施設から役職者またはリーダー的お立場の方1名以上ご参加下さい

MTDLP能登支部第1回事例検討会

8月25日(金) 19:00～

会場：穴水総合病院

介護予防・日常生活支援総合事業に関する情報交換会

8月25日(金) 18:30～

会場：やわたメディカルセンター別館5階多目的ホール

魅せる作業療法!MTDLP活用実践研修 ～MTDLPを活かした在宅支援～

9月9日(土) 13:00～

会場：金沢大学医薬保健学域保健学類
(鶴間キャンパス) 2号館1階

MTDLP金沢東支部第1回事例検討会

9月20日(水)

会場：未定

今さら聴けない・今から学ぶ!!医療と介護のリハ専門職連携 ～加賀・小松・能美の取り組みとOTの実践から～

10月22日(日) 9:00～

会場：芳珠記念病院

午後からは第2回加賀支部事例検討会もあります。ふるってご参加下さい



K I N J O
UNIVERSITY

きみに、見せたい未来がある。

金城大学
社会福祉学部
社会福祉学科
子ども福祉学科
平成30(2018)年4月開設予定
(設置計画中、教職課程認定申請中)

医療健康学部
理学療法学科
作業療法学科

看護学部
看護学科

大学院
総合リハビリテーション学研究所
総合リハビリテーション学専攻(修士課程)

金城大学 医療健康学部 理学療法学科・作業療法学科

- ◆平成28年度 理学療法士国家試験、作業療法士国家試験合格率 100%
- ◆理学療法学科 第一期卒業から7年連続 100%の高い就職実績!
- ◆作業療法学科 第一期生(平成29年3月卒業)の就職率は100%を達成!

金城大学 入試広報部 ☎0120-276-150 E-mail: nyushi@kinjo.ac.jp
〒965-0292 石川県小松市南町1-1-1
http://www.kinjo.ac.jp/ku



在宅ならではの深い関わりが持てる!!
「退院後の人生を支えたい!そんな想いで介護の業界に入りました。お客様とじっくり関われる今の環境にやりがいを感じています。」

デイサービス 太田のリゾート白山
管理者(作業療法士) 中富 博久

↓こちらの事業所で募集中です↓

金沢市、野々市市、白山市の
◆デイサービス ◆訪問リハビリ(有料老人ホーム内勤務)

正社員 月給…270,000円～、時間…8:30～17:30または 9:00～18:00
休日…週休2日(シフト制)、賞与年2回、社会保険完備、退職金あり

パート 時給…2,000円～、時間…1日2時間以上
勤務…1ヶ月の勤務回数店相談、労災あり ※時間に応じて雇用保険・社会保険加入

共通 昇給年1回、交通費あり、各種資格手当、日/祝出勤手当、OJT制度

サウンウェルズ 株式会社サウンウェルズ本社 人事部：東(ひがし)
☎076-272-8982

賛助会員名簿 (順不同)

A会員

社会医療法人財団董仙会
学校法人 金城学園

B会員

学校法人センチュリー・カレッジ
社会福祉法人徳充会青山彩光苑
特定医療法人社団勝木会
学校法人阿弥陀寺教育学園
医療法人社団和宏会

C会員

粟津神経サナトリウム
石川県済生会金沢病院
石川県リハビリテーションセンター
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
医療法人社団浅ノ川千木病院
医療法人社団映寿会
医療法人社団さくら会森田病院
医療法人社団慈恵会
医療法人社団丹生会
医療法人社団生学生会んやま健康クリニック
医療法人社団千木福久会
医療法人社団扇寿会
医療法人社団長久会
医療法人社団同朋会
医療法人社団中田内科病院
医療法人社団洋和会

医療法人社団輪生会
医療法人積仁会
金沢医科大学病院
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
金沢赤十字病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
社会福祉法人篤豊会
公益社団法人石川勤労者医療協会城北クリニック
公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院
珠洲市総合病院
芳珠記念病院
医療法人社団博洋会
医療法人社団持木会柳田温泉病院
医療法人社団博友会
医療法人社団光仁会
宇野酸素株式会社
金沢義肢製作所
株式会社トータルシステム
株式会社トミキライフケア
株式会社半田
株式会社ヤマシタコーポレーション金沢営業所
セントラルメディカル株式会社
三星自動車販売株式会社
株式会社メディベック
株式会社サンウェルズ

D会員

医療法人社団あいずみクリニック
有限会社さわやか金沢

新入会員名簿

勤務先	氏名	勤務先	氏名
介護老人保健施設百寿苑	平野 喬大	彦三きらく園	戸水 理恵
小松市民病院	前田 晃秀	通所リハビリセンターおれんじ	杉野 真悠
南ヶ丘病院	西村 莉佳	やわたメディカルセンター	鷹野 愛菜
かないわ病院	小島 和清	やわたメディカルセンター	山村 若菜
機能訓練特化型サービスまほろば	中川 雅崇		

会員動向

石川県作業療法士会会員数 789名(平成29年7月現在)
認定作業療法士 29名(平成29年7月現在)
専門作業療法士 福祉用具2名、高次脳機能障害1名、認知症1名、手外科1名



編集後記

日々、編集人が思案していることは、作業療法の魅力を若い世代にどう伝えていけばよいかということである。2009年を底にして、一旦安定した18歳人口が、2018年から再び減り始める「2018年問題」が間近に迫ってきている。高校生や中学生に、まずは、作業療法士という国家資格があることと、仕事内容について知ってもらう必要がある。作業療法士を志す学生は言う。「楽しそうだなと思ってもらえれば、高校生は興味を持つ。」と。だからといって、治療としての手工芸やゲームでアピールすればそれでよいのだろうか…。一人一人の生活をコーディネートするところに面白さがあるのだが…。今後も試行錯誤して広報していきたい。

今号より、上記のQRコードを掲載した。石川県作業療法士会のHPが閲覧できるのでぜひ活用していただきたい。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行

編集担当：米田貢、明福真理子、白山武志、酒野直樹、横川菜美、杉浦有子、藤田隆司、川口朋子、寺井利夫、太田哲生、寺嶋翔子、白田明莉、中川雅崇、越仲共子、山梨珠美

発行所：公益社団法人 石川県作業療法士会

〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678

発行人：東川哲朗 印刷：ヨシダ印刷株式会社